

消費者動向調査 No.113

テーマ「冬のボーナス使いみち調査」

調査時期 平成 25 年 10 月

調査対象 福岡県内のサラリーマン家庭の主婦 500 人
(うち回答者 481 人、回答率 96.2%)

回答者区分

A.年代

	%
20代	4.2
30代	20.4
40代	37.6
50代	24.7
60代	13.1

B.あなたのご家庭で

ボーナスがあるのは

	%
夫だけ	52.0
妻だけ	13.0
両方	35.0

当調査は情報提供を目的として作成されたものであり、その正確性・確実性を保証するものではありません。

西日本シティ銀行
NCBリサーチ & コンサルティング

[調査結果本文]

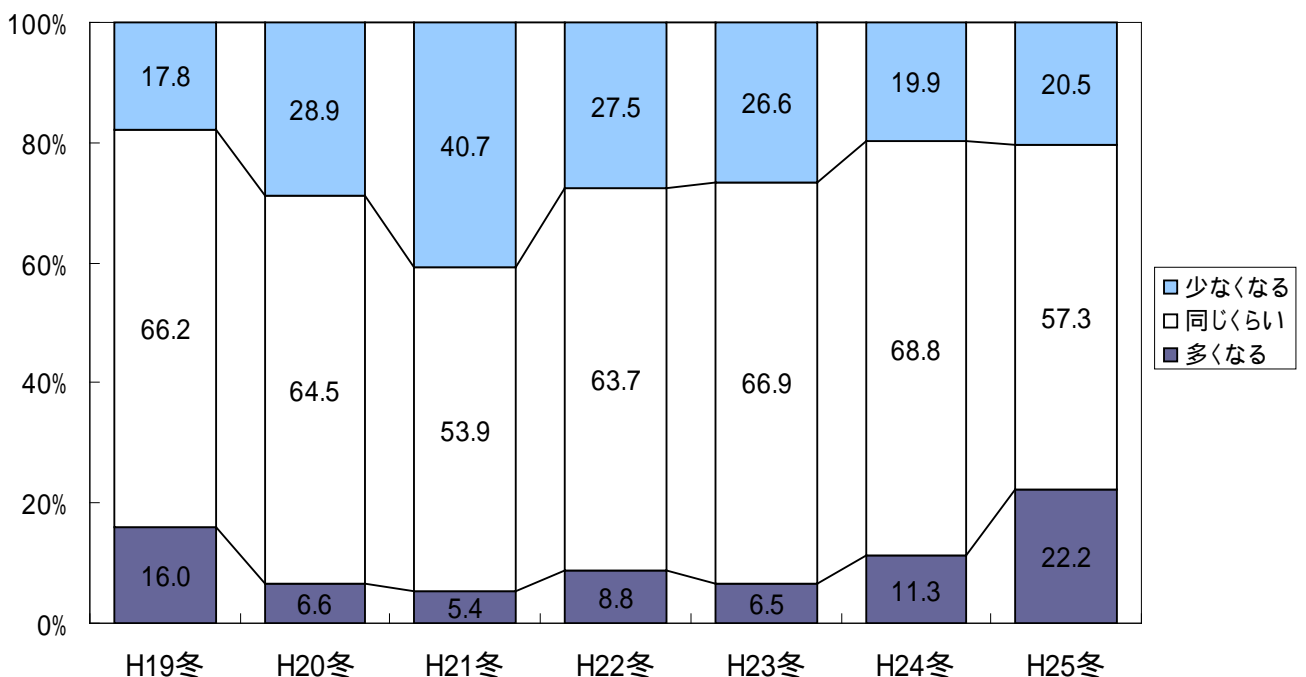
内閣府は11月の月例経済報告で、「景気は、緩やかに回復しつつある。」と発表しています。先行きについては、「輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が発現するなかで、家計所得や投資の増加傾向が続き、景気回復の動きが確かなものとなることが期待される。また、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要も見込まれる。ただし、海外景気の下振れが、引き続きわが国の景気を下押しするリスクとなっている。」としています。

このような中、消費者はこの冬のボーナス受給額をどのように予想し、どのように消費しようと考えているのでしょうか。また、冬のボーナスの使いみちについて、これまでと違った傾向は表れつつあるのでしょうか。ボーナス受給を間近にひかえ、福岡県在住の主婦を対象に冬のボーナスについての消費動向をたずねました。

今年の冬のボーナス、前年冬と比較して「多くなる」は10.9ポイント増加し、22.2%で過去最高。

冬のボーナスが前年冬より「多くなる」と予測する割合は10.9ポイント増加し22.2%で、過去最高となった。「少なくなる」は0.6ポイント増加し20.5%、前年冬と「同じくらい」は11.5ポイント減少し57.3%であった。

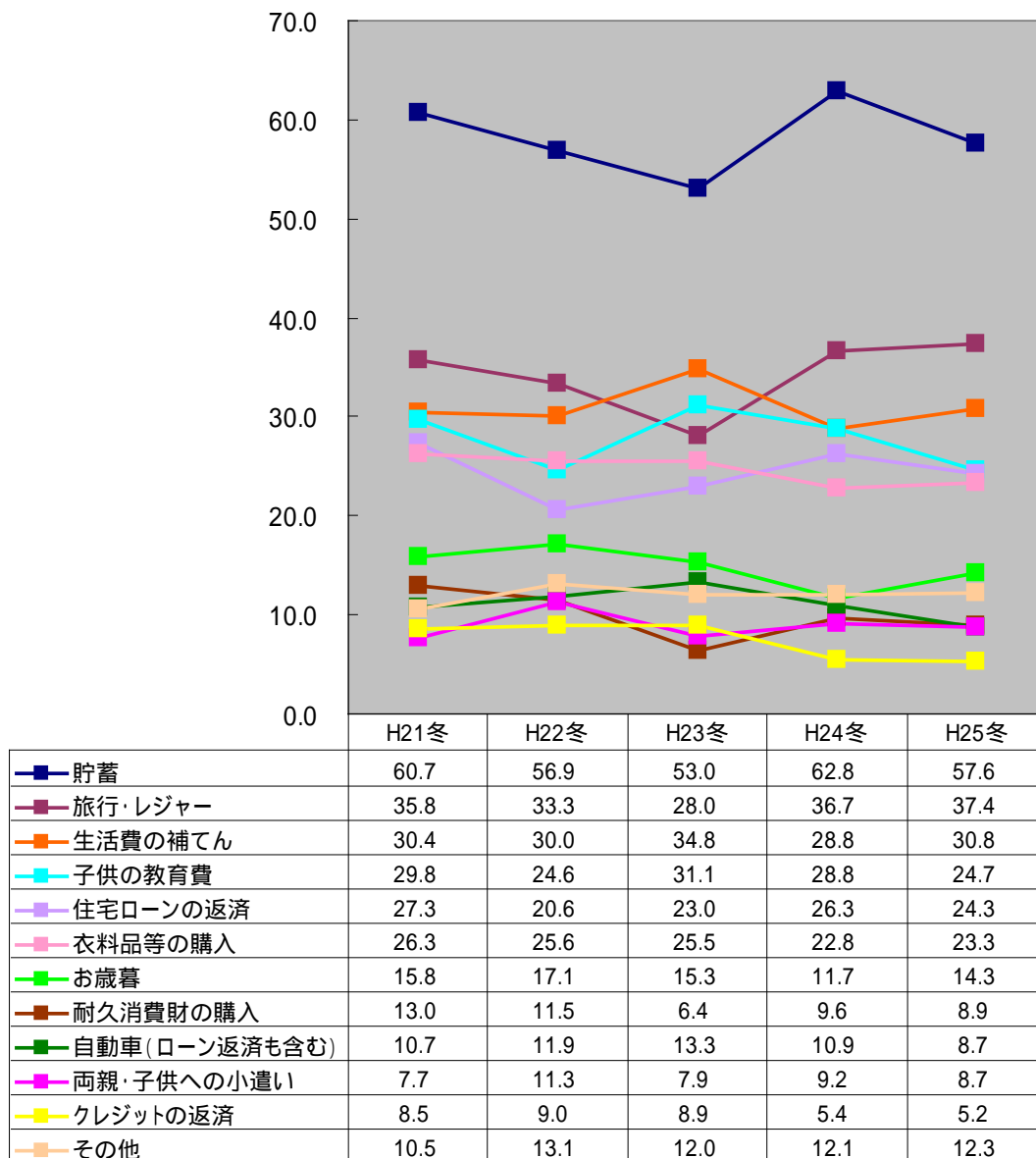
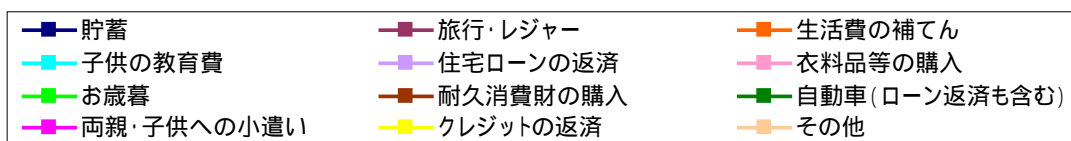
[グラフ1 : 冬のボーナスは昨年に比べどうなると予想していますか] (単位: %)



冬のボーナスの使いみち予定、1位は「貯蓄」で57.6%。2位は「旅行・レジャー」で37.4%。

冬のボ - ナスの使いみち予定 1位は「貯蓄」で57.6%。これは前年冬の62.8%より5.2ポイント減少した。2位は「旅行・レジャー」で0.7ポイント増加して37.4%。3位は「生活費の補てん」で30.8%となった。

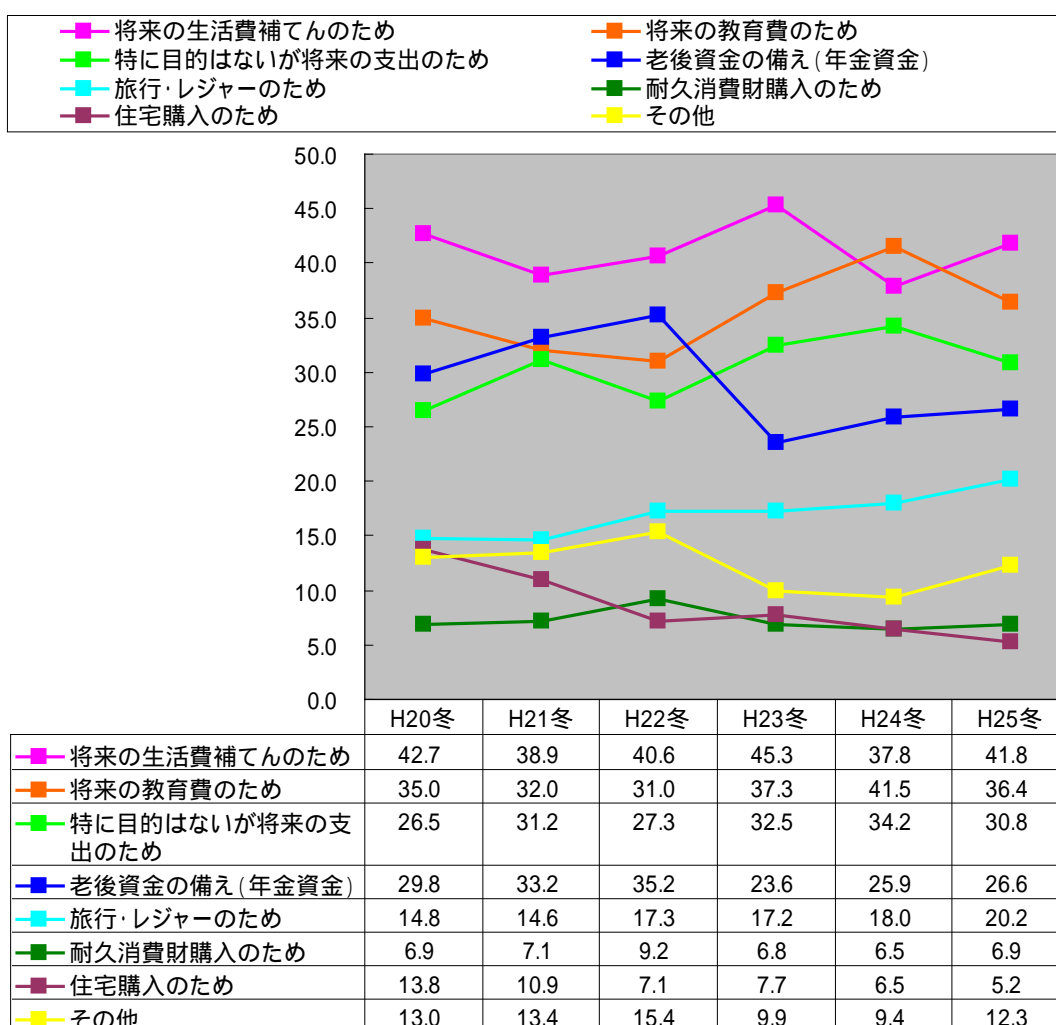
[グラフ2：冬のボーナスは何に使う予定ですか（3つまで）] （単位：％）



ボーナスを貯蓄する目的、1位は「将来の生活費補てんのため」で41.8%。2位は「将来の教育費のため」で36.4%。

冬のボーナスを貯蓄する目的の1位は、「将来の生活費補てんのため」が前年冬に比べ4.0ポイント増加し、41.8%でトップ。2位は「将来の教育費のため」で5.1ポイント減少し36.4%と、引き続き将来への備えが上位を占めた。

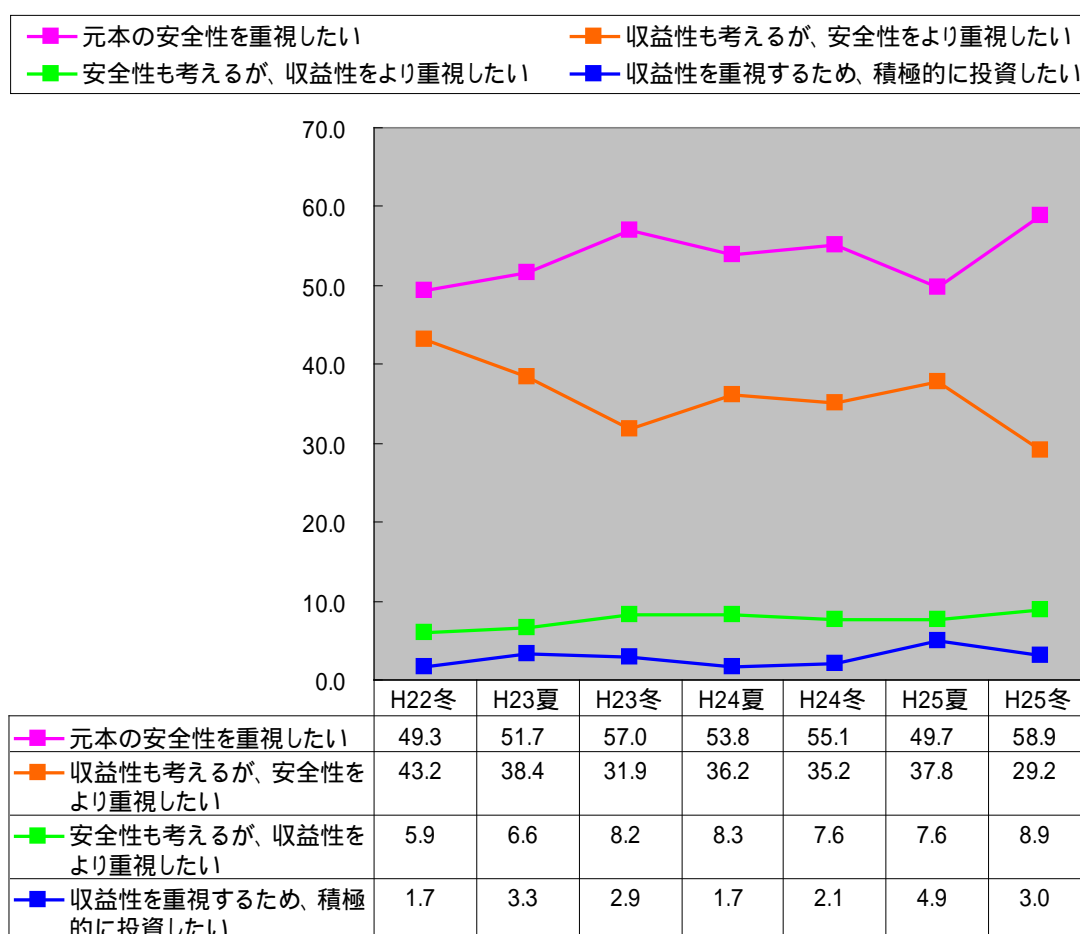
[グラフ3：将来の何のために冬のボーナスを貯蓄しますか（2つまで）]（単位：%）



冬のボーナスを貯蓄する場合の考えは、「元本の安全性を重視したい」が58.9%で1位。

「元本の安全性を重視したい」が今年の夏から9.2ポイント増加の58.9%で7期連続1位。「収益性も考えるが安全性をより重視したい」が今年の夏から8.6ポイント減少して29.2%。景気回復の兆しが見られるものの、安全性を重視する割合が引き続き高水準である。

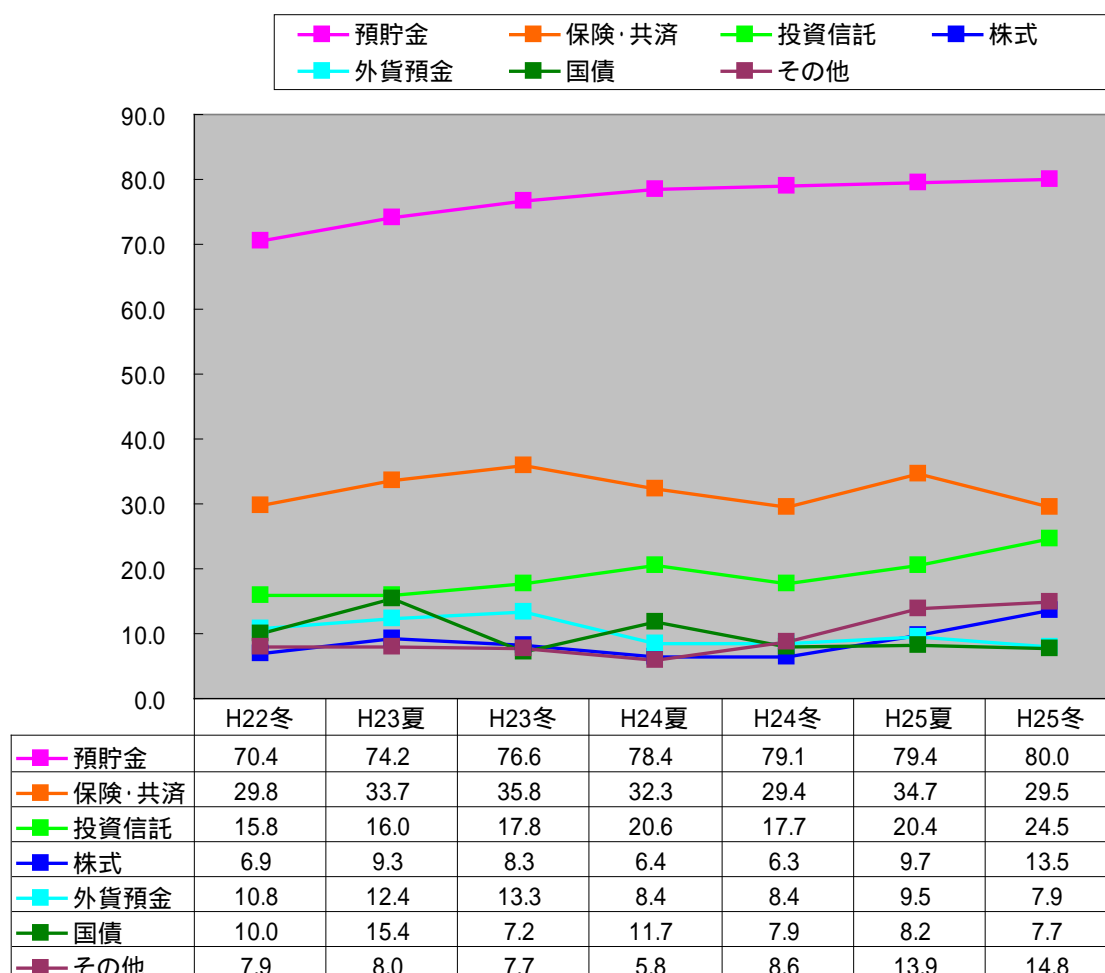
[グラフ4：冬のボーナスを貯蓄する場合、あなたの考えに近いのは]（単位：％）



関心がある金融商品、1位は「預貯金」で今年の夏より 0.6 ポイント増加し過去最高の 80.0%。

現在関心がある金融商品は「預貯金」が 80.0%で 1 位。2 位は「保険・共済」で 29.5%。景気回復傾向にあるものの、引き続き安定志向が強く、「預貯金」が過去最高を更新した。株価の回復や円安傾向を受けて、「投資信託」や「株式」といったリスク商品に対する関心も増加した。

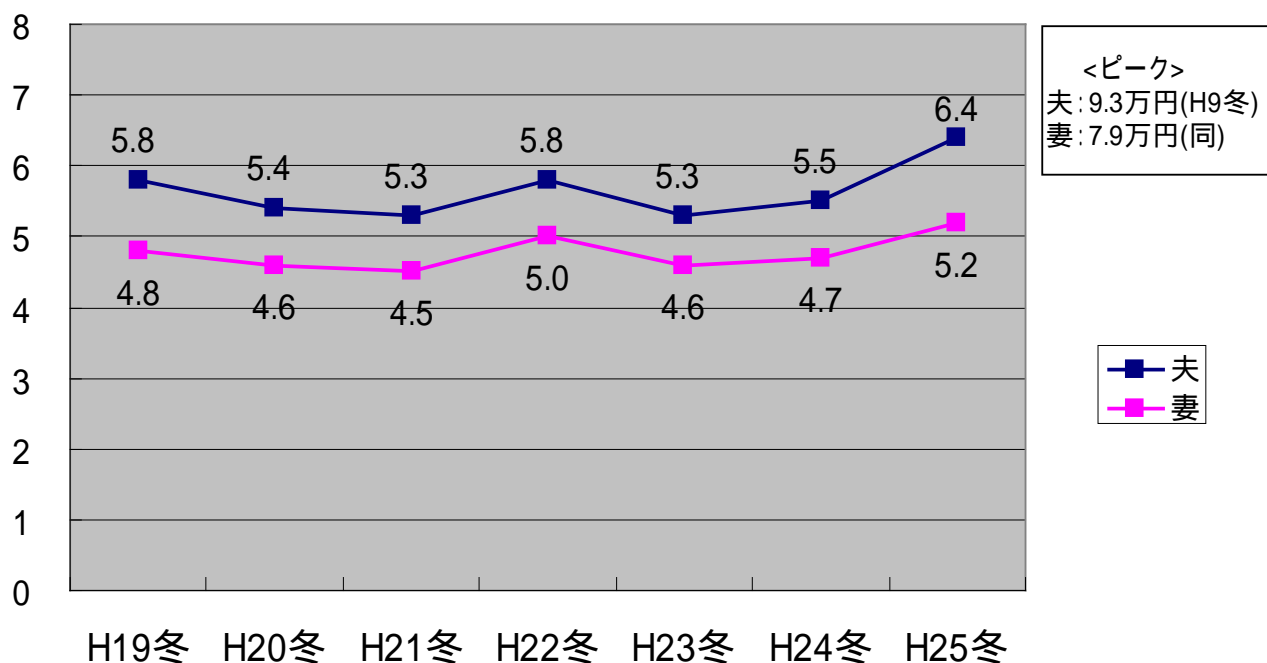
[グラフ 5 : どのような金融商品に関心がありますか(いくつでも)] (単位: %)



冬のボーナス、自由に使える金額は、前年冬に比べて夫は 9 千円アップ。妻は 5 千円アップ。

冬のボーナス、夫が自由に使える金額は平均 6.4 万円（前年冬比 9 千円増）。妻が自由に使える金額は平均 5.2 万円（前年冬比 5 千円増）。冬のボーナスが“多くなる”との予想が増加したのを反映し、自由に使える金額は前年の冬から夫・妻ともに増加した。

[グラフ 6 : 自由に使える金額はどれくらいですか] （単位：万円）



この調査に関するお問い合わせ先は
西日本シティ銀行 広報文化部 長谷川、梶原 TEL 092-461-1869
NCB リサーチ&コンサルティング 調査部 原 TEL 092-476-3051